

新潟県奨学金ネットワーク通信

第 6 号目次

奨学生成果報告会の成果報告会を開催！

10 人の奨学生が「自分の夢」を発表しました	2
------------------------	---

参加者からのアンケート

皆さんからの熱い応援メッセージを紹介します	3
-----------------------	---

自治体の奨学金返還支援制度広まる！	7
-------------------	---

子どもの貧困の現状とキッズドアの活動 困難を抱える中高生の現状と支援の必要性

認定 NPO 法人キッズドア理事長渡辺由美子さんの講演から	8
-------------------------------	---

book 紹介

「限界の国立大学 法人化 20 年、何が最高学府を劣化させるのか」

朝日新聞「国立大学の悲鳴」取材班著 朝日新書	10
------------------------	----

映画紹介 『威風堂々 奨学金って言い方やめてもらっていいですか？』	11
-----------------------------------	----

奨学金情報 TOPICS	12
--------------	----

【コラム】

本通信の発行がほぼ 1 年振りとなってしまいました。この間、制度改善が進み 2025 年度から、修学支援制度では 3 人以上の子どもを扶養する場合に適用される保護者の収入要件が廃止されることになりました。しかし、3 人以上扶養が条件ですので、子どもが 3 人の場合は、長子が働いて扶養から外れると、他の 2 人は対象外となることになりました。また、一方で、この制度は受け入れる大学等（短大・専門学校含む）にも条件があります。例えば、3 年連続で学生が収容人員の 8 割に満たない大学等は制度の対象外となることになりました。少子化の時代、どの大学も定員集めに必死ですが、これでは、益々、入学者が減ってしまいますね。でもこの要件は、対象となる大学が予想以上に多く、結果、緩和されることになりました。（中川）

高校奨学生の成果報告会を開催！

10 人の奨学生が「自分の夢」を発表しました。

2025年3月2日(日)新潟ユニゾンプラザで、2回目となる高校生による成果報告会を開催しました。会場には、昨年に引き続いて、支援者や関係団体役職員、一般市民など計102名から、参加して頂きました。

江花新潟県奨学金ネットワーク代表による「もっと奨学金問題に関心を持っていただきたい」旨のあいさつを受けた後、中川が「奨学金問題の現状と課題」について、解説を行いました。その後、ビッグスワンから駆けつけていただいた花角新潟県知事から、ご来賓として感謝と激励の挨拶を頂きました。花角知事からは、10人の奨学生の発表を最後まで聞いて頂きました。



江花代表挨拶



花角知事挨拶

今回、発表頂いた奨学生は、全員新潟ろうきん福祉財団から給付型奨学金をもらっている高校生です。女子が8人、男子2人。また、3年生5人、2年生3人、1年生2人です。佐渡や上越方面からの奨学生もいました。昨年、同様に予め800字程度の作文を書いてもらい、それを読み上げる形での発表としました。作文のタイトルは「私の夢」です。以下、簡単に紹介します。

・大学では海外留学を含め、もっと勉強して英会話できるようになりたい

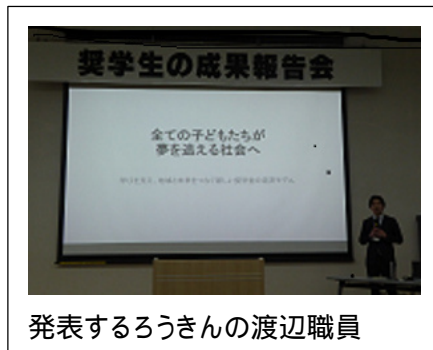
- ・将来は支援を必要としている学生に支援できるようにになりたい
- ・奨学金で進学を考えられるようになった。
- ・ウェディング・プランナーをめざして専門学校に進学する。
- ・自立した大人になって、誰かのために行動できるようにになりたい
- ・寮での日常生活が大切な思い出。
- ・運動の楽しさを教える保育士になりたい。
- ・バスケットボールのコーチになりたい。
- ・大学進学して勉強もスポーツも、より高見をめざす。
- ・人の命を支える助産師になりたい
- ・美容の力で周囲の人を輝かせたい。

その後、参加された西村ちなみ衆議院議員からも、御礼と激励の挨拶を頂きました。また、全員ではありませんが、発表内容に共通していることが何点かありました。大学や専門学校等など更なる進学を考えている、支援者や地域への恩返しをしたい、頂いた奨学金を進学のために貯金しているなどです。



堂々と発表する奨学生

その後、【研究報告】として、新潟労金小千谷支店渡辺佳樹職員による「全ての子どもたちが夢を追える社会へ」と題した報告が行われました。マルチ商法に勧誘した友人が、奨学金返済に行き詰まっていたことをきっかけに奨学金問題に関心を持ち、調査研究したものです。活動返済という考え方を創出し、社会参画活動が返済に充当される新たな奨学制度を立ち上げたいとする内容であり、アンケートでもぜひ、実現してほしいとの意見がありました。



発表するろうきんの渡辺職員

第二部は参加者全員が10グループに分かれてのグループディスカッションです。集会の感想と私たちがこれからできることについて、意見交換を行いました。主な意見は以下の通りです。

発表内容について

- ・発表者はみんなしっかりしている。直接、話を聞くことが自分事になるなと感じた。
- ・「日常生活」が幸せという発表が印象的。
- ・夢を持っている将来へのお手伝いができてよかった。
- ・将来の展望につながっていることは、給付額以上の効果が出ている。
- ・借りているのだから、ガンバレというような上から目線にならないように気をつけたい。
- ・学ぶこと、進学することが当たり前ではない家庭があることを改めて知った。

- ・奨学生はみんな大人で明確な将来性を持っており、驚いた。
- ・ろうきんを利用していることが間接的ではあるが、若者の将来を支えていることに誇りを感じた。
- ・明確に将来の夢を持っている発表が多く感動した。
- ・大変な思いをしたことも将来に活かせる。
- ・人の為になりたい、人を支えていきたい思いが発表者にあった。

私たちにできること

- ・職場で奨学金を話題にする機会を増やす。
- ・中学生・高校生に対する学習会を開催する。
- ・新潟の企業が集まって奨学金事業をすればよい。
- ・常時、個人や団体から寄付を受け入れる体制や仕組みが必要だ。
- ・労組のアンケートでまずは組合員の利用状況を確認したい
- ・この話で聞いたこと、感じたことを家族や身近な人と話しをする。
- ・関心を持ってもらうためには“発信”すること。
- ・教育の根本を変える必要があると感じた。
- ・少子高齢化が進む中で、どう社会を育てていくのか、大学奨学金も含めて、この世代を社会・企業が支えていく必要はある。
- ・SNS等でもっと知らせる活動、周知対策を広める必要がある。子供はSNSを活用しているが、親は回覧板の人も多い。
- ・今日の報告会参加者にもっと若い人が増えれば、変化が生まれるのではないか。



活発な議論でした

参加者からのアンケート

皆さんからの熱い応援メッセージを紹介します

会場参加者の 60 人から、アンケートにご協力頂きました。アンケートでは、「私の夢」の実現に向けて動き出す高校生の力強い決意に感銘を受けた旨の意見が多くありました。誌面の都合上、その一部だけをご紹介します。

[奨学生発表の感想・応援メッセージ]

- 未来の才能や今努力したい人には奨学金が欠かせなく、日本の未来は、奨学金のおかげで動いていると思った。(10 代)
- 色々な事情があり 奨学金を借りて、夢に向かって頑張っている方がたくさんいることを知りました。皆さんの夢がとても素敵で、その夢が叶うよう頑張りたいです。(10 代)
- 皆さんの夢に心打たれました。また、奨学金で可能性が広がったという話は、これから進学する学生さんに聞いてほしい内容と思いました。(30 代)
- 皆さんが明るく前向きに学業に専念できたことを聞いて嬉しく思います。奨学生の皆さんは「奨学金のおかげ」と言っていますが、学業の成果、スポーツの成果、夢を見つけることができたのは「皆さんの努力」の賜物であることは間違いありません。自分の夢に向かって引き続き、学生生活、これからの人生を楽しんでください。(30 代)
- 夢が見つかった人、夢を探し中の人、いずれにしても奨学金という経済的支援を受けられたことで、未来に向けて進んでいけているのは素晴らしいことだと感じました。(30 代)
- 奨学金の返済が経済的負担となっているので、少しでも大人が支援していかなければならないと思います。奨学生に関わらず若い世代の学びや夢の実現のために支援していくことで

国の発展につながると思うので、国が主体となった支援策が必要。(40 代)



グループ協議は時間不足でした。

- 自分のためでなく、人の気持ちに立って寄り添いたいなど「他者のために」を言葉にする学生さんが多く、驚き感動しました。皆さんは新潟県の宝です。これからもそれぞれの夢に向かってがんばってください。(40 代)
- 様々な可能性がある子供たち。その可能性をつなぐためにも、奨学金が一人一人にとって大変大きな制度であると感じました。(40 代)
- さまざまな家庭環境や困難なことがある中、将来を見据えて夢を語っている学生たちの話は胸にグッとくるものがありました。若い皆様は今後、幸せな人生を送れることを願っています。(40 代)
- 奨学生の皆さんの感謝の気持ちが非常に強く伝わってきました。また、その恩返しをしたい、次は支援する側に回りたい、誰かの役に立ちたいという強い気持ちにも更に胸が熱くなりました。それぞれの夢に向かってがんばってください。(40 代)
- 奨学生の皆さんに共通していることとして、困っている人を助けたい、支援したいという想いがあることが嬉しかったです。支援の連鎖が

拡がってほしいと思います。家族の支援が受けられないにもかかわらず、自身の境遇を恵まれていると表現しているのが印象的でした。(40代)



多くの方からご参加頂きました。

- 支え合うこと、夢を持つこと、優しさを持つこと、奨学金から様々な思いがつながる大きな力を感じました。これからもその思いを持って明るい未来へ向かってください。生の声を聞けて本当に良かったです。(40代)
- "支えのおかげでやりたいことをあきらめない。" "夢に向かえる。" と自分の夢、やりたいことを語る姿に感動しました。経済的な支援が、一人一人の未来につながっていると思いました。"自分らしく、夢に向かって歩んでください。(40代)
- 奨学金を望む子たちにとって、高校や大学等が夢へのステップになっていることを知った。素晴らしい取り組みだと感じた。(40代)
- 奨学金の恩返しで地元貢献したい(就職) とのお話、県内の就労者不足の一助となり、支援する側にも価値がある。奨学金だけでなく将来の就職支援までサポートが必要。皆さん将来の夢を持っていたのが驚きでした。(40代)
- 本日は大勢の人の前での報告会、大変お疲れ様でした。発表することも、とても勇気のいることだったと思います。皆さんの高校生活がと

ても充実していることを知り、嬉しく思います。(50代)

- 教育の力の大きさを改めて実感しました。誰もが望む教育を受けられる環境を整えることが本当に必要だと思いました。(50代)
- 多くの方から支えられたがゆえに、将来は多くの方を支えたいという気持ちを持ったのだと思います。自分の夢に向かって、実現するように頑張ってください。(50代)
- 親の収入の多寡で進学、就学の選択を狭めてはいけない、若い方々が何かをあきらめないでよい世の中にしないといけなく強く感じました。皆さん、将来について明確に考えられていて、是非、叶えてもらいたいと感じました。(50代)

● 一番最初に報告された妙高市から来られた奨学生の発表内容に共感しました。出身地域を良くしたいという気持ちを大切にして、今後の学生生活を頑張り、そして楽しんでください。(50代)

● 自分も奨学金を受けて大学への進学を実現することができたことを思い出しました。学びたいことを学びたい時に学べる、誰もが教育の機会均等を享受できる社会をめざさなければならぬと思いました。(60代以上)

● 多くの人の前で、ご自身の話をすることは緊張されたと思いますが、全員の皆さんがご自分の言葉でしっかり、お話されており、立派でした。これからも色々な場面で多くの人々が皆様を支えてくれますので、安心して夢に向かって進んで行ってください。素晴らしいお話を聞かせていただきありがとうございました。(60代以上)



【奨学金問題をもっとに知ってもらうためには】

- 多くの人に知ってもらうために奨学金のことを教科書に載せたり、パンフレットなどにして学校などで配る。(10代)
- SNS の発信、テレビ、新聞に取材してもらう、YouTube 広告活用など。(30代)
- SNS を活用した周知活動。奨学金を利用した方の体験談、講演会の開催。奨学金支援団体と金融機関が連携した活動が必要。(40代)
- 奨学生はもちろんですが、この課題に関わる様々な方のお話を直接聞くことが何よりも効果的だと思います。(40代)



いよいよ始まります

- ろうきん運営委員として、奨学金ネットワークの活動は知っていたが、会社の組合員には伝えたことがなかった。組合員の労金利用がご自身の福利厚生のためだけではなく、奨学生の支援という付加価値となることを伝えて、支援の輪を広げることが必要。(40代)
- このような報告会を都度開催できるよう、開催回数を増やすことによりもっと多くの方から興味を持っていただけるのではないかと思います。子供の有無に関わらず、社会がもっと関心を持って奨学金に関するセミナー等を増やすことが有益ではないかと思います。(50代)
- マスコミにリリースしたり、インフルエンサーから話題にしてもらうと良いと思います。ろうきん財団の会報誌を広く配布することも大事です。SNS を通した情報発信。(50代)

- 行政や金融機関が奨学金に関する課題を発信し、子育てをしている人だけの問題ではなく地域ぐるみで取り組みを進めていくことが大切と思った。(50代)
- 勤務先はもちろん、取引先においても発信する機会があるので、しっかりアナウンスしていきたいです。自分でできることをコツコツやります。(50代)
- 奨学金制度をもっともっと多くの方から使ってもらうことから始めたら、それも無利息での。利用できる制度を増やしたらどうでしょうか。そのためには、もっともっと 民間の企業から奨学金制度を立ち上げてほしい。(50代)
- 奨学金を借りることは恥ずかしいことじゃないという認識を多くの人に持ってもらえらるともっと たくさんの方が応募できると思いました。(50代)
- 個人や個々の企業、自治体が取り組むだけでなく、社会の仕組みとして奨学金問題に関心を寄せ、問題が解消されるようになると良いと思う。例えば企業が奨学金についての活動をするのが社会貢献となり、企業としてもプラスになるような制度など。(50代)
- 国が(住んでいる地域で支援に差を生じさせないためには、国が全国一律に対処すべき)給付型の奨学金制度をしっかりと確立し、税金と合わせて広く寄付金(税制上の優遇策も拡充して)を募集する。そのことを大々的に PR もする。(60代以上)



新潟県の重要課題です。

以上

自治体の奨学金返還支援制度広まる！

新潟県をはじめ、多くの自治体で奨学金を返還している若者たちに対する支援(補助)制度が広まってきました。人口減少や少子化が進むなか、若者たちに地元に着してもらうためには、生活の負担となっている奨学金返済について、支援が必要だという認識が広まってきたものと思われます。これらの制度が今後、さらに拡大することを期待しています。

新潟県内自治体の奨学金返還支援(免除)制度概要一覧表

2025年2月調査

自治体名	名称および概要
新潟県	Uターン促進奨学金返還支援事業: 学生支援機構等の奨学金返還を支援、大学等卒業後1年以上県外勤務、30歳未満、最大120万円上限
新潟市	新潟市奨学金返還特別免除制度: 大学等卒業後市内に居住、本奨学金最大40万円まで免除。新潟市企業参加型奨学金返済支援事業補助金: 中小企業等で従業員の奨学金返還支援のある企業に補助する
三条市	三条市奨学金免除制度: 市の制度利用後1年以上継続勤務、市に居住の場合等に返還免除。三条市奨学金返還支援補助金: 市内にUターン、学生支援機構等の返還支援、最大180万円。
柏崎市	ウェルカム柏崎ライフ応援事業補助金: 学生支援機構等の返還額を支援、 柏崎市奨学金返還補助: 本奨学金の返還支援
新発田市	奨学金返還支援事業: 県外大学を卒業、学生支援機構等の返還支援
小千谷市	おぢやごころ奨学金返還支援事業: 学生支援機構等の奨学金返還支援、最大200万円、登録した協力事業者に対する補助金制度あり
十日町市	Uターン促進奨学金返還支援事業補助金: 学生支援機構等の返還支援
見附市	見附市奨学金(返還免除制度): 本奨学金返還の一部免除
村上市	奨学金返還支援補助金: 本奨学金に対する返還支援
糸魚川市	Uターン修学資金返済支援事業補助金: Iターンは看護師等に限定
妙高市	妙高市奨学金貸付制度(返還特別免除): 市内居住者は50%上限免除
五泉市	五泉市奨学金貸付減免制度: 市内居住者の免除制度、回数制限あり
上越市	上越市定住促進奨学金(返還免除): 市内居住者は2/3上限免除、上越市若者奨学金返還支援助成金: 市内3年以上居住、最大100万円
佐渡市	佐渡市Uターン者奨学金返還支援事業: Uターンは年30万円、Iターンは年15万円上限で返還支援
魚沼市	魚沼市定住促進奨学金返還支援制度: 学生支援機構等の返還支援
出雲崎町	出雲崎町奨学金返還支援事業助成金制度: 学生支援機構等の返還支援
湯沢町	湯沢町Uターン促進奨学金返還支援事業補助金: 本奨学金の返還支援
関川村	奨学金返還一部免除制度: 本奨学金の返還一部免除

詳しい制度概要は各自治体のホームページ等をご参照ください。

限界の国立大学 法人化 20 年、何が最高学府を劣化させるのか？

朝日新聞「国立大の悲鳴」取材班著 朝日新書 2024 年 11 月発行



国立大学は安穩か？

東京大学が 2025 年度から学費を値上げすると報道されました。私自身は、東京大学へ進学できる家庭は高額所得世帯が多いので、きっと可能なんだろうなと思っていましたが、ことはそんなに単純ではありませんでした。

「国立大学は、国から予算をもらって安穩としているのだらう」と、いまだにそうした見方を持つ人も多いと記されています。私もそれに近い考え方を持っていました。なぜなら、私が 1981 年に地元の国立大学に入学した時の学費は、入学金 100,000 円、年間授業料 180,000 円でした。しかし、現在はどうか。入学金 282,000 円、年間授業料 535,800 円です。合計 537,800 円も増加し

ています。これをさらに上げようというのですから、安穩としているといわれてもしょうがないのではないか、と思っていました。

米百俵の精神が必要なのでは

でも、本書を読むと、予算がなくて汲々としている国立大学の姿が浮かび上がってきます。それは、雑務の書類作成に追われ、さらに研究時間や研究費不足により論文が書けない研究者たち。また、人件費不足により非常勤研究者の雇止めが増加したり、教職員のモチベーションも低下しています。加えて、内閣府主導で様々な改定が行われ、大学の自治が形骸化していることなど、多くの問題が生まれていることが本書で紹介されています。

国立大学の問題だけではありませんが、日本の国そのものが劣化していると感じています。少子化により、国の人口が大幅に減少し、地域社会が維持できなくなりつつある現在、米百俵の精神ではありませんが、「教育」こそが国を立て直す最重要課題であると思います。そのための中心が国立大学ではないのでしょうか。でも、そうはなっていませんね。

減額され続ける運営交付金

国立大学は 2003 年に「国立大学法人」として法人化された際、財務省が安易に予算を減額できないようにするため「法人化前の公費投入額確保を求める」と付帯決議がつけられたものの、その付帯決議は早々に反故にされ、運営交付金の減額がはじまり、2024 年度は 2004 年度に比べて 1631 億円も減額されています。

本書では運営交付金の減額により、悲鳴を

上げている国立大学の姿が多く紹介されています。いまだに和式トイレが多く設置されており洋式トイレ渋滞が発生している事例、図書館の電気代を節約するために開館時間の短縮や、休日等の使用を中止している事例、予算不足で非常勤講師の待遇悪化や技術支援スタッフの削減などが行われている事例などが紹介され、クラウドファンディングや命名権売却などで収入を得ようとしている、涙ぐましい努力の姿も紹介されています。

優秀な研究者の海外流出

私自身、最も大きいのは雇用の問題ではないかと思いました。国立大学の求人条件を調べると「年収 300 万～500 万、任期 3 年、学歴は修士以上」や「助教担当、年収 500 万～、任期 5 年、学歴は博士」など、任期付きの募集ばかりだそうです。また、退職した教員のポストを空いたままにして補充しないことや、非常勤職員の雇止めなどが横行している状況も紹介されています。それらの結果、任期付きでは本来の研究ができないとして、海外に流出する研究者が増えていることや、博士課程を修了しても安定的な職業や収入は得られないとして、研究者の道をあきらめる人も生まれています。

女性研究者の悩み

特に、厳しいのが女性研究者です。出産や子育てが研究と両立できないとして、研究者の道をあきらめる事例も多いとのこと。その結果、国立大学に占める女性研究者の割合は約 2 割、学生の女性比率も学士過程は 37.4%だが、修士課程は 27.5%、博士課程は 29.9%にとどまっています。こんな状況ではイノベーションは生まれないと本書でも語られます。

予算の傾斜配分による歪み

本書の取材班が実施したアンケートでは

「職場としての国立大学の魅力が大きく毀損された。自由度が下がり、能力・意欲ある者が国立大学での仕事を選ばなくなった」との回答がありました。教職員のモチベーションも大きく低下しているとのこと。それは、交付される運営交付金の中に「傾斜配分枠」が持ち込まれたことが大きいですね。それは、学生の進学・就職状況から、TOP10 論文数、研究業績など 11 の指標により配分されます。結果、特定の大学だけが予算増加の恩恵を受けている一方で、多くの大学は予算不足に悩んでいます。また、大学間格差も生まれており、最も影響を受けているのが、教育系の単科大学だそうです。新聞等で繰り返し、教員不足が叫ばれる中、教員を育成する大学経営が圧迫されるようでは、ますます教員不足が加速する可能性もあります。これでは厳しいですね。

地域に開かれた大学は高評価

先行きが厳しい国立大学ですが、法人化により評価されているところもあります。それは、今までの狭い大学の「閉じた世界」から脱して、地域貢献や社会貢献に力を入れるようになったことです。まずは過半数が学外者で構成される「経営協議会」です。これら民間人などが大学経営に関与することになり、外部の視点も持ち込まれました。これらについては多くの学長からも好意的に受け止められています。

いずれにしても、少子化が急速に進行する現代社会において、教育予算が G7 で最下位、OECD 諸国でも低位に位置する日本は、国立大学を疲弊させ、教員養成にも力を入れず、いったい、どこへ向かって行こうとしているのでしょうか。(文責: 中川)

子どもの貧困の現状とキッズドアの活動

～ 困難を抱える中高生の現状と支援の必要性～

認定NPO法人キッズドア理事長渡辺由美子さんの講演から

2024 年 12 月 16日に中央労福協のWEB セミナーで認定NPO法人キッズドア理事長の渡辺由美子さんのお話を聞きました。

子どもの貧困に関わる様々な課題が整理され、子供たちの実情がよく伝わってきました。渡辺さんは中央労福協が主催した「高等教育費の漸進的無償化と負担軽減を考えるシンポジウム」(2023 年 9 月 14 日開催)にも登壇され、子どもたちの置かれている状況をわかりやすく説明しています。今回のセミナーを聞いて私が気になった点を何点か紹介します。



1. 日本の一人親は世界一のワーキングプア

日本は、母子世帯の就業率は 86.3%と先進国で最も高いのに、平均年間収入は 272 万円、相対的貧困率(全世帯中央値の下位半分の真ん中以下)は 48.68%で、OECD 加盟 36 か国中 35 位です。つまり、日本人の一人親は世界で最も働いているのに、最も貧しいということになります。それは「母子世帯の2人に1人は貧困家庭、全体では子ども9人に1人が貧困家庭ということになります。

その背景にあるのは、公的支出に占める教育費の低さです。日本の割合は、8%でOECD 加盟 36 か国中 34 位です。あわせて、高等教育にかかわる費用の家計負担割

合は 51%で、こちらは上位3番目(2021 年調査)です。

2. 様々な格差の存在と保護者の声

そのために様々な格差が生まれています。教育格差(親の収入が高いほど子供の点数もよい)については、子供の学習環境が大きく影響しています。生活困窮家庭は、家が狭く、勉強部屋が足りなかったり、保育園の弟妹に邪魔されたりもします。したがって、塾や習い事にも行けません。また、体験格差(例:夏休みでもどこにも行けない)や、デジタル格差(例:家に Wi-Fi 環境がない)など、子どもたちの間で様々な格差が生まれています。さらに学校生活においても、4割の家庭が経済的な問題で部活動に入るのをあきらめたり、お金のかからない部活に変更したりしている状況も報告されました。保護者の声として「子どもの将来を考えて、習い事をさせてあげたいが金銭的に無理なので、子どもに申し訳ないと思っている」ことや、「物価が上がり塾や習い事の費用も高く、子どもたちの希望に添えないことを申し訳なく思っている」などが意見が掲載されています。そして、週 10 時間以上働いている高校生が一定数以上いることも報告されています。

3. ひとり親家庭の大学等進学率

しかし、現代は自分の夢を実現するためには、大学や専門学校等さらに上位の教育機関へ進学することが必要です。全世帯の平均進学率 83.8%に対し、ひとり親家庭の進学率は 65.3%、生活保護家庭の進学率は 36.4%です。そして、多くの学生は給付型奨

学金だけでは足りずに、貸与型奨学金を利用することになります。入学後の不安として、多くの学生が、学費が払えずに退学してしまうのではないかと(74%)、学費や生活費のためのアルバイトで勉強が滞るのではないかと(86%)、という不安を抱えています。

4. キッズドアの学習支援

キッズドアでは「自立する力を育て、貧困の連鎖を断ち切るための学習支援」として居場所支援や食支援、体験活動などを含む様々な学習支援を行っています。さらには証券会社と連携し、塾・予備校や模試の費用、受験料、入学金や進学準備等に活用できるよう早い段階で支給できる奨学金制度も実施しています。そして、「社会全体で子どもを育てる・教育する 誰でもが豊かな教育を享受できる国へ」と提言されています。

昨今では、あまりにも自己責任の考え方がはびこり、将来、社会を担っていく若者たちを社会で支えるという考えには、なかなか、ならないようです。こういう状況では、親を支援しないと子どもたちの支援にはつながらないと思います。厳しい家庭環境におかれた子どもたちにとって必要とされているのは何か？本当に役に立つ奨学金とは何か？など、学ぶところが極めて多い講演会でした。

(文責:中川)



映画紹介

『威風堂々 奨学金って言い方やめてもらっていいですか?』

奨学金を題材にした映画ができました。社会派映画を手掛けている「なるせゆうせい」さんの監督・脚本によるものです。



あらすじ

やりたいことも夢もない高校3年生の唯野空は、将来の保険として大学進学之道を選ぶが、同時に借金を背負う。親との確執もあり、実家に居心地の悪さを感じた空は、ダメな恋人・蛭間拓人の提案で同棲生活を始め、経済状況はさらに差し迫ったものになっていく。普通のアルバイトをしても奨学金の返済が終わるのは約20年後になってしまうという現実から逃れたい空は、大学で知り合った九頭竜レイと水江惣太の影響を受け、裏アルバイトに手を出す...

「40歳まで返済が続く」「奨学金は二人にひとりが利用している制度」...

現実を直視し、自身の借入額や返済期間を判っている学生が多い世の中、このセリフは映画の世界ではなく実際の学内で普通に交わされている会話と思いました。危険を承知で「パパ活」に身を投じることも。この映画を見た以上、「今の奨学金制度をチャラにする」を自分事として取り組まなければならないと強く感じました。(さとうじゅん)

映画はAmazonプライムやU-NEXTで視聴可能です。ぜひ、ご覧ください。

奨学金情報 Topics

■ 成績下位4分の1の恐怖 学生3万人弱に「警告」

2020年度から始まった日本学生支援機構の修学支援制度(給付型奨学金含む)では、学業要件として、単位数や出席率のほかに成績要件があり、成績が下位4分の1に入ると「警告」を受け、2回受けると奨学金の支給と授業料減免がストップします。2023年度末に警告を受けた学生は29,983人で、このうち、27,732人が成績要件の対象者です。これら困窮学生は、アルバイトをしないと学生生活が送れません。でもアルバイトを続けると勉強時間が不足し、成績が下降します。それも相対評価です。これはあまりにきびしい制度です。



■ 経済的貧困・時間的貧困・社会的孤立が顕著 あしなが育英会保護者アンケート 病気や災害、自死などで親を亡くした高校生に給付型奨学金を支給している「あしなが育英会」が、その保護者に対して行った生活実態アンケート結果を公表しました。高校奨学生世帯の平均可処分所得は年間187.8万円、これは全世帯平均の405.8万円の半分以下であり、母子世帯平均の251.4万円より63万円も低い数値です。また、仕事や家事に費やす時間が長いため、自由時間や睡眠時間が短いこと、生活上の問題について相談できる人がいない(20.5%)という社会的孤立の問題もあきらかになっています。



■ ファンドの運用益で4000人に給付型奨学金を 三菱UFJ信託銀行

三菱UFJ信託銀行はファンドの運用益を学生の奨学金として支給する、新しい給付型奨学金ファンドの運用を2025年4月から開始したと発表しました。2029年度には1千億円まで運用資金を増やし、約4千人に年間120万円を支給したいとするものです。なお、学生の選考や奨学金の支給などは奨学金情報サイト「ガクシー」と協力して行う予定です。



【編集後記】(なかがわ)

3月2日に開催した成果報告会は、奨学生の熱意あふれる発表と参加者の応援したい気持ちが入り混じり、不思議な空間となりました。その中で「成果報告会という名称が疑問」との意見も頂きました。確かに、奨学金を給付することによって成果を出すことを強制するものであってはいけません。でも何をもって成果とするかは様々です。奨学金に限定した成果を示すことは難しいでしょう。でも、高校生自身の成長や変化そのものが成果であり、場合によっては悩みやとまどいも成果なのかもしれません。

第6号 2025年4月15日
新潟県奨学金ネットワーク
事務局 新潟県労福協
〒950-0965
新潟市中央区新光町 6-2
TEL 025(281)0890
FAX 025(281)0891
発行責任者 中川 亨